

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和6年1月8日（月・祝） 9：30～11：00
場 所	毛呂山町立光山小学校 2階視聴覚室
出 席 者	小学校保護者（光山小学校） 17名
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 佐藤学校教育課指導主事 岩田教育総務課管理係長 佐藤教育総務課管理係主事補
発 言 者	内 容
石田課長	<p>本日はお忙しい中、毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）についての説明会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。このたび教育委員会では、子どもたちにより良い学校のあり方についての再検討をし、学校教育における課題、今後の児童・生徒数の推移、必要とされる教室数、既存学校校舎の維持管理、維持更新などの教育的環境を解決するため、最も望ましい施設形態とその時期を示す毛呂山町立小・中学校編成計画（案）を策定いたしました。本日の説明会は、この編成計画（案）に関しての説明会となっておりますので、よろしくお願いいたします。本日の説明会でございますが、人数の把握をするために事前に希望者を募り確認をさせていただきました。ご協力をありがとうございます。また、急遽人数の関係などから、会場の方を変更させていただきましたことに対するご協力、ありがとうございました。本日説明会のお時間ですけれども、約2時間前後とさせていただく予定でございます。併せて撮影や録音の方につきましてはご遠慮いただきますようお願いいたします。なお、教育委員会は説明会の内容の方をホームページなどで公表したいと考えておりますので、録音の方をさせていただきますことを、あらかじめご了承をお願いいたします。それでは、毛呂山町立小中学校編成計画（案）について説明会を開催したいと存じます。最初に、教育長よりご挨拶をいただきます。</p>
高沢教育長	<p>改めまして、みなさんおはようございます。教育長の高沢でございます。昨年も色々お世話になりましたが、本年もどうぞよろしくお願いいたします。開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>まず、1月1日に発生しました能登半島地震ですね、大変尊い命を失われた方々、また震災に遭いまして避難を余儀なくされている方々に足してお悔やみと心よりお見舞い申しあげます。是非皆さんの方もできるところでは是非ご協力いただければありがたいかと思います。本日は休日、連休の3日目ということ、そして学校の方は明日から3学期が始まります。大変ご多用の中、ご出席いただきましてありがとうございます。日頃より、保護</p>

	<p>者、また地域の皆様の学校教育に対するご支援ご協力重ねて感謝申し上げます。</p> <p>さて、教育委員会の方では先ほど司会から案内があったとおり、学校編成（案）の方を作成させていただきました。町の方でも人口減少、それから少子高齢化、様々な課題が山積する中で、子どもたちにより良い教育の環境を提供するためにはどんなものが一番望ましいかということで、平成の25年より検討させていただきました。各関係団体の皆様からご意見をいただきながら、2回ほど提言を出させていただき、そしてそれらを基に、平成30年、未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～ということで、教育計画をまとめさせていただきました。町のホームページですとか、様々な広報活動を通じて皆様にお知らせし、今それを順次進めているところでございます。しかしこの間、コロナの影響ですとか、あるいは小学校における35人学級の導入等で、教育環境も大きく変化してまいりました。そこで昨年、町立小中学校のあり方に関する検討委員会を設けさせていただきました。委員の皆様から様々なご提案等をいただきました。それを基に今回また編成の方をさせていただいたわけでございます。学校教育の中で、子どもたちに様々な環境を提示する中で、やはり施設・設備、それから人的な環境、それから教育の内容、これにつきましては日々変化するものではありますけれども、より良い環境を是非提供させていただきたいということで私たちはこの編成計画の方をさせていただきました。子どもたちへの指導にあたる先生方、そして学年ごとの教科の内容、指導の内容、さらに施設・設備、校舎ですとかあるいは校庭。様々なそういう環境を具体的に示しながら進めてまいるわけでございます。将来を担う子どもたちのために、より良い教育を私たちの方も提供していきたいということが第1でございますので、夢を持って世界に羽ばたく毛呂山の子どもたちを是非育成してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。毛呂山町教育委員会の方の考えの方を説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>ありがとうございます。それでは、本日の説明会に際し、職員等の紹介をさせていただきます。</p> <p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p>
石田課長	<p>それでは、教育総務課道地副課長よりご説明をいたします。</p>
道地副課長	<p>教育総務課の道地と申します。本日はよろしくお願いいたします。説明会に入る前に、お配りした資料の確認をさせていただければと思います。次</p>

第、資料、感想記入用紙になります。感想記入用紙におきましては、ご記入いただき、お帰りの時に受付のカゴの方に入れていただければと思います。今回の説明に関しましては、この資料を元に進めさせていただきますが、この資料白黒でございますので画面を見ていただいた方がわかりやすい部分がございますので、画面を見ていただければと思います。それでは私の方から小中学校の編成計画（案）について説明させていただきます。それでは、着座にて説明させていただきます。

初めに、実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のよりよい教育環境を整備するために、川角中学校区におきましては施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区におきましては施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。

平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的に大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されております。手引きの中では「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える」とされております。学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしましては、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がってしまう、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられ、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では学校単位でございますが、9学級以上を確保することが望ましいという形となっております。

それでは、子どもたちの置かれている現況について詳しく見ていきたいと思っております。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある

学校づくり」に関する参考資料でございますが、こちら生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加していきます。いわゆる少子高齢化です。赤枠でくくってある2060年は2010年生まれ、今の13歳、現在中2の生徒が50代の時になることを示しています。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になります。こちら青が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えているのがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。こちらは現在の状況になります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転しているのがわかると思います。続きまして、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフになります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況でございます。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人という形になります。こちらは、児童のいる世帯の状況となっております。右側の白い部分が児童のいない世帯になってございますが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っているのがわかると思います。こちらは家族の中で、対人関係を形成する組み合わせを示したものでございます。2人家族ではもちろん1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなっています。そのため、学校において多様な人間関係を体験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移となっております。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに減少しており、今年令和5年度では1,801人となっており、ピーク時に比べると約34%まで減少しているということとなっております。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推計となります。減少してきた児童生徒数は、今後も減少していくことが推測されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級となっております。令和11年度以降なんですけれども、光山小学校、泉野小学校の全ての学年で単学級となる見込みとなっております。続きまして、教員数についてでございますが、小学校で校長・教頭を両方含めて事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校はすでに1人となっております。泉野小学校は令和7年度から、川角小学校においては令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。続きまして、小中学校施設の建築年度でございま

	<p>す。町の小中学校は6校ございますが、見ていただいているとおり全ての学校が建築後40年以上経過している状況でございます。こちらは、小中学校の改修の状況になります。この中で下の赤枠内の大規模改修ですが、学校の中で工事が済んでいるのが毛呂山中学校と川角中学校になります。毛呂山小学校は体育館の大規模改修が済んでいます。今後、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して全て大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会を立ち上げまして、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3クラス以上が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、ここの通学40分以内というのは通学距離にするとおおむね3キロという形で提言をいただいております。続きまして、平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、先ほど教育長からも説明がございましたが、平成30年に未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになってございますので、後ほど資料の方で確認させていただければと思います。</p> <p>小中一貫教育の導入の主な狙いがございます。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることで更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それでは、令和3年度に小中一貫教育の取り組みがゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思います。</p> <p>～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～</p> <p>(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)</p>
--	--

	<p>今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。</p> <p>こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の校舎だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の時間でございます。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っていることを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っております。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じような授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間で分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の更なる充実と、児童生徒のよりよい教育環境整備をするために先ほども一番最初に申し上げましたが、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。</p> <p>それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございしますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地のため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができま</p>
--	---

す。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。また、一体型・隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率よく学校との協働ができるものと考えられます。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等でございます。まず、川角中学校区でございます。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設し施設一体型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級でございます。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区でございます。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地でございます。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級でございます。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支援学級を2学級として8学級となっております。毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定となっております。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと。川角小学校と光山小学校については、川角小学

	<p>校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革などは毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。続きまして、こちら川角中学校の敷地イメージでございます。画面のピンクのところになりますが、増築校舎は校舎の西側・プール横あたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保などを検討した結果でございます。また併せて学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保を維持します。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してのスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを、右下になるんですけれども、お示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細が検討され決定されていきますが、まずは教育委員会で検討した結果でございます。続きまして、こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までの利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎での教育となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中学生との体格差などにより、ゾーニングなども考慮しての増築校舎の教室整備でございます。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を開始する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものになりますが、イメージとなっております。このような形で、多目的室を整備し、行っていきます。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。続きまして、こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生が一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室にすべての授業の用意が整っているので、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生</p>
--	--

	<p>徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることが期待できます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージでございます。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備でございますが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山小学校内の学童保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところでございますが、お示しいたしております。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、A棟（南側）のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の木質化を考えております。毛呂山中学校校舎のイメージでございます。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を利用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることが期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。今後のスケジュールでございます。12月から1月にかけて編成計画（案）を説明し、ご理解いただけるように努めて参ります。1月から2月にかけてパブリックコメントを実施し、3月に計画の策定と考えています。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。説明は以上となります。ありがとうございました。</p>
石田課長	<p>それでは、これから質疑応答などに移らせていただきたいと思います。職員からの質疑に対する回答の方は、申し訳ございませんが、着座にての回答ということでご理解いただきたいと思います。挙手をいただければご指名いたしますので、お名前を名乗っていただいて、質問をしていただければという風に考えております。ただいまの説明など、または色々疑問に思っていることなど、ご質問ある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
A	<p>はい。</p>

石田課長	お願いいたします。
A	A と申します。よろしくお願いします。以前、東公民館の説明会にも参加させていただいたんですけれども、その時に、体の大きい中学3年生と体の小さい小学1年生が同じ休み時間に遊んだりして危なくないのかなという意見があってすごく気にはなっていたんですけど、さっきも縄跳びの交流、上の子が下の子を誘ってというのはすごく良いことだなと思ったんですけど、中学3年生が夢中になって走り回ってて、小学1年生がトコトコって歩いててぶつかったりとか。遊ぶところを分けるとか、そういった対策とかってというのはあったりするのでしょうか。
土屋課長	小学生と中学生が同じ敷地内で生活して安全かどうかという話かと思いますが。実は川角中学校については、毛呂山中学校よりもグラウンドがすごく広い状況となっています。その中に増築校舎ということで作っていくのですが、遊ぶ場所を分けるという風なところですね、図でいきますと、この辺りが遊具スペースというところで、ここが職員室になりますので、そういったところで、先生の方も遊んでいる様子が見えるというところで、主に遊具を使うのは小学生になっていきますので、増築校舎のところから行きやすいような形で考えています。その中で中学生はというところでは、敷地を分けながら使っていくような形になります。また、先ほどあったような毛呂山中学校での取組をやったときにですね、小学生は割とチャイムが鳴ったら猛ダッシュをして教室に戻る様子があるんですね。中学生はそれを見て配慮して、ぶつからないようにしっかり見ているなというのが、私の方もそれは見ましたので、そういった部分ではやっぱり成長段階に応じて周りが見えるように成長していくんだなと感じています。あとは今、小学校でも、6年生と1年生の教室が隣同士、あえてくっつけてやっていて、6年生がお兄さんお姉さんになって、1年生を見るような形の教育も行っていますので、中学生になった場合にはさらに小学校1年生だったり、低学年の児童に対しては配慮できるようになっていくなと感じておりますので、その辺はエリアを分けると同時に、子どもの思いやりの心が育っていきますので、その辺は安心していただければ良いかなと考えております。
A	ありがとうございます。
石田課長	ありがとうございました。続きましての質問、または違う質問など、ある方はいらっしゃいますでしょうか。お願いいたします。

B	B といいます。よろしくお願いします。今までの説明とは違って、今回かなり施設を増設したりとかっていう話がだいぶあったと思うんですけども、これまでも町の財政的に小学校の改修が難しいとかっていうような話をずっとしていた中で、今回増設等によってどれくらいの予算がかかるのか、だいたいどれくらいの総事業費を考えているのか分かれば教えていただきたいです。
道地副課長	今回、川角中学校区に関しましては小学校の増築校舎及び川角中学校内の改修。毛呂山中学校区に関しては毛呂山小学校の大規模改修を考えているのですが、その両中学校区の概算費用としては約 14 億円を考えております。
石田課長	よろしいでしょうか。
B	ありがとうございます。
石田課長	付け足しになりますけれども、今、総事業費の方を説明させていただきましたが、この事業費に対しては、国の補助なり、しっかりと確認をして使えるようにしていきたいとも考えております。ご理解をお願いいたします。他に何かございますか。
A	度々すいません。
石田課長	どうぞ。
A	度々すいません。光山小と川角小って、くっついた後って、その施設、校舎、体育館って何か使われる予定があるのでしょうか。
石田課長	はい、ご質問ありがとうございます。施設の方ですけれども、基本的にはこれから再利用していくという形での検討を行っていきます。具体的に何にいうところ、まだお示しはできませんけれども、地域の方々の交流であったり、いろいろな使い方ということで利用していくというように町の方は考えておりますのでご理解をいただきたいと思います。また、体育館などは防災拠点となっておりますので、そちらの方もしっかりと使えるようにはしていきたいというように考えております。
A	ありがとうございます。

石田課長	はい、お願いいたします。
C	Cと申します。お願いします。説明の方で、クラス35人制という言葉と、1学年2クラスが望ましいという言葉があったんですけども、現状光山小学校では人数が少なく35人ギリギリ36人でも2クラスにはなれない状態が続いていて、結構教室内ぎゅうぎゅうで先生もご苦労されているところを見受けられるんですけども、将来的に統合されても、また結局子どもの人数が減少していった場合、どちらが優先されるのかなと思ひまして。35人1クラスが優先されるのか、2クラスが望ましいが優先されるのか。できれば、やはり児童の多様性クラス替えがあった方が良く、1クラスだとやっぱり友達関係が固定してしまうということを懸念すると、現状でも2クラスを導入してほしいなって思っているんですけども、埼玉県独自でとか、そういう感じではお考えは如何でしょうか。
土屋課長	そうですね、今、光山小学校において35人ギリギリのところで、クラスの中で33人であったりとか、という状況ではございます。こちらについては、国の方で、県の方で1クラスの人数が決まっています、そのクラス数に応じて教員が配当される形になっております。なので、今現状では35人学級を小学校に導入していますので、これ以降もしばらくは、国、県の方も35人学級でやっていく方向になります。こちら統合されますと、クラス数が増えてですね、また児童数も減ってはいくんですが、大体2クラスで下げ止まりのようなところでしばらく続いていくかなと予想されております。逆に1クラスの中の人数については、20数人程度というような形になっていくようなことが見込まれています。
C	ありがとうございます。
石田課長	ありがとうございます。他の方のご質問に対して更なる・・・、はい、お願いします。
D	Dです。すいません、お世話になります。小学校の継続していく基板になっていくところが、川角中学校区ですと、川角小学校の方をというお話で、私が聞き逃していたら申し訳ないんですけども、やはり光山小学校にも良いところがあると思いますので、そういったところを継続していただきたいということと、お願いという形の言葉になってしまうんですけども、他の市のところで小中一貫が始まって継続されているというところを主人から聞いたりしたところ、最初の頃は盛り上がって小中で交流がしっ

	<p>かりあったんですけれども、だんだんどうしてもなあなあになってしまっているところがあるというのを、親目線で見ても感じるところがあるということが聞こえてきましたので、せっかく一緒にされるのであれば、交流を末永く続けていっていただきたいというのが願いとしてありますので、是非よろしくをお願いします。</p>
石田課長	<p>はい、ご意見ありがとうございます。町の考えとしては、歴史の古い川角小学校、児童生徒の関係であるとか、そういったところをしっかりと検討して進めていこうというふうには考えております。そういった中で、今ご意見として挙がってきたのは、ハードとか制度的なところも非常に大切だとは思ってご理解いただいているとは思いますが、それ以外の、今現在のソフト的なと言うんですか、良いところをしっかりと活かしていただきたいというご意見だというように理解いたしました。どちらの学校が、ということではなくて、町の学校として、しっかりと良い学校、良い教育を行うように整えていきたいというふうに考えておりますので、ご理解をよろしく願いいたします。</p>
高沢教育長	<p>補足させていただきます。小学校同士の統合に向けては、該当する2小学校については、今後交流をさらに深めていく計画はあります。先ほど統合に向けた様々な統合の準備委員会の中でカリキュラムの運営の部会の方もございます。これは学習内容ですとか、それから行事内容ですとか、だんだん近づくにつれて行事をどのようにやっていこうとか、あるいは授業の形態について、小中一貫教育ですので、中学校区の中で小学校2校と中学校1校が9年間を見通したカリキュラムで進めていますので、それぞれの学校での差は無くなっていくとは思いますが、さらにそれを近づけるような形で準備は進めさせていただきます。小学校4校と越生町の小学生と合同で様々な行事をやっている中で、コロナ禍の関係で6小学校が集まってというのはなかなかできにくい状況です。体育大会のようなものは、光山小学校と川角小学校で合同、毛呂中区の方は2校でということをやっていますので、そういう2校の交流はさらに深めていきながら、中学校の先生方、それから生徒含めて、学区の中ではそういう交流は深めていく予定です。さらに、学びに向けた取組というのは、先ほど示した小中一貫教育の中で今後深めていきますので、是非気になったところは、またご指摘いただきながら見守っていただければと思いますので、よろしくお願いします。以上です。</p>
石田課長	<p>ありがとうございます。他に、どのような些細なことでも結構ですので、ご意見、ご質問などいただきたいと思います。お願いいたします。</p>

B	<p>度々すいません。中1ギャップの解消を目的としての一貫校という話なんですけど、今度高1になったときにまたギャップが生まれて、中1ギャップを経験してない子がどうなるのかなっていうのが率直に疑問に感じたんですけども。あとは、私立の中学校とか、そっちに進学したいっていう子がいた場合にどうなるのかなっていう2点が気になって、お答えいただければと思います。</p>
土屋課長	<p>高校への進学についてでございますが、先ほどもあったように、人間関係づくりとか、コミュニケーション能力の育成のところで、義務教育卒業後に大きな集団に入ったときに、いろいろな困難をきたすことがあるというのが文科省の方でも言っておりますので、そういった面ではクラス数を多くやっていく、集団を多く、切磋琢磨できる環境というのが必要であると考えているところも1つ、今回の統合について課題の1つであるなど感じております。小中一貫教育については今も行っておりますので、そういったところで進学への不安であったり、中1ギャップの解消については少しずつ成果が出ているところはございます。ただ、ギャップが全てなくなるわけではございませんので、高校進学についても色々な手立てが必要であります。現在の教育の中では、キャリアパスポート特別活動において、細かい話なんですけど、キャリアパスポートといって小学校1年生から中学校3年生まで、どういったような積み重ねとか、どんな特別活動を行って、どういった夢を持っているか、ということをやっております。それを高校に送るような形で、中から高への連携というところも実際取り組んでいるところがございます。そういった部分ですね、学習指導要領等に則って行っていきますので、そのあたりというところで中から高については進路指導も含めて対応している状況ではございます。あとは、私立の中学校に行くときにというようなところがございますが、基本的には学習指導要領に則った形で教育課程を行っていきますので、特別に、ものすごく特別にやっていくわけではございませんので、それは私立中学に行ったとしても問題なく繋がっていきますのでご安心ください。以上です。</p>
高沢教育長	<p>基本的には小学校6年間、中学校3年間、これは、義務教育の中の9年間は系統してやっていきますけど、小6、中3、基本は変わりません。義務教育学校といって1年生から9年生まで編成している学校があるんですけども、毛呂山の小中学校の統合の場合には義務教育学校ではございませんので、小学校は6年間で完結します。中学校は3年間で完結しますが、9年間は系統的な学習活動を行っていくという、そういうシステムになっ</p>

	<p>ています。ご理解なかなかいただきにくいかと思うんですけども、小は6年間、中は3年間、これは基本的には残っています。ですから小学校6年生卒業の段階で私立の中学校に、ということも十分可能でございます。それはご安心ください。</p>
石田課長	<p>ありがとうございました。</p>
高沢教育長	<p>ざっくばらんに、心配だなとか、気になるなとか、今後こういうところはどなるんだろうなということは、些細なことでも結構ですので、是非ご相談いただければと思います。先ほど、財政の面で今まではなかなか、町の予算的にきついんじゃないかということもあったんですけども、11年度までの長期的な予算編成の中で、資金に関しては町の方のご理解を得ながら、この計画を進めさせていただいております。多分にかかる建築、それから整備費用ですけども、年度ごとにきちんと計画を立てて準備をして、それから先ほどこちらの回答にもあった通り、国からの補助ですとか、そういうのも十分いただきながら、町の負担がなるべく小さくなるような形で、しかも、施設設備を十分充実したものを提供できるように準備させていただきたいと思います。過去に、中学校の大規模改修、それから体育館の改修、それから小学校の小さな改修を行っておりますが、今いる児童生徒たちに関しても快適な環境になるように、特別教室のエアコン整備ですとか、体育館の空調設備等、避難所等を含めた、順次、今の子どもたちにも快適な学習環境を整備できるように、準備させていただいておりますので、色々な面でご理解をいただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>はい、お願いいたします。</p>
D	<p>もしかしたら以前ご意見が出てたかもしれないんですけど、ちょっと私、分からないので質問なんです、体操着とか、今学校が違う。もし質問があったらすいません。そういうのっていうのは急に翌年替わるになっても、今まで何年間かいた生徒たちの体操着はそのまま繰り上がるという形になるんですか。それとも違うんですか。</p>
土屋課長	<p>体操着、小学校については、先ほど説明にあったように川角中学校区であれば川角小学校のをという話があるんですが、しばらくは、やはり保護者の方の負担もありますので、当然どちらも使って良いというような形で考えております。中学校は変わらないので、そのままという形になる予定でございます。</p>

D	ありがとうございます。
石田課長	ありがとうございます。色々ご心配になることなどあると思いますので、是非是非この機会にご質問などいただけたらというふうに考えます。
E	すいません。
石田課長	はい、お願いいたします。
E	Eと申します。保護者は卒業しましたが、地域の人間ということで、ここ数年間、光山小学校に関わってまいりましたので、一言と申しましょ うか。地域の声ということで。光山小学校の児童、一番遠い子から川中の 部分に行く結構登校距離が増えるので、そこら辺をバスがってという話 がありましたけど、地域の者も見守り等、関心がありますので、どこら辺ま での光山小学校のエリアだとバスの対象になるのかなっていうのを分か りましたら教えてもらえればと思います。
道地副課長	スクールバスの説明をさせていただきましたが、スクールバスについて は、おおむね道のり3キロ以上という形で考えてございまして、これから 精査をさせていただくんですが、光山小学校区に関しては、3キロ以上と いう部分は当てはまらないというふうに考えています。
E	今のところ光山小学校区では該当するところはないということなんです か。
道地副課長	はい。
E	保護者の方の今後の意見によっては検討課題となる場合もあるんですか。 毛呂山台とかあっちからだ倍になっちゃうんじゃないかと思うんですけ ど。
石田課長	お答え申し上げます。一応、今現在では3キロというところで基準を考 えて、バスなどを検討しておるのですが、そういった中で、そうですね、 保護者の一番の心配事というのは通学に関わるというところのご意見 も非常にいただきました。広聴会であっても、通学に対してのご心配とい うのはあったのですが、今現在で3キロで難しいですよというよう なご回答、そういった形の回答というのはできないとは考えておるのです

	けれども、やはり1つの基準を持って色々なことを進めていかなければならないということもご理解していただきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。
E	参考までに、川角小学校の方ですと、3キロ以上の場所も出ているということですか。どこら辺の地域が入るのかなってのがもし分かれば。
石田課長	川角小学校の通学している児童さんに対しましては、目白台の方々に3キロ以上というところは該当しております。
E	もう1つよろしいでしょうか。
石田課長	はい。
E	令和11年から新校舎ってふうになってますけど、それまでに、光山小でも結構、外のベランダの部分の壁が落ちてしまったり、雨漏りがする場所が目につくんですけど、そういったあまりにも酷い場合は、必要であれば11年まで待たなくても応急処置と申しませうか、大規模じゃなくても工事は必ずしていただけるものなのではないでしょうか。ほったらかしということはないですね。
石田課長	はい、ご心配ありがとうございます。整備するまで、編成を行うまでの間、何もしないということはありません。今現在も、学校生活において支障が出る時は、少しずつ改修したり、直させていただいております。同じように今通っている子どもたちの学校教育環境というのも大切にしながら進めていきたいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいというふうに考えます。
E	ありがとうございます。もう1つ、すみません。先ほども申しました登校班の時間がズレる児童が光山の場合は結構増えてくると思うんですけど、教育委員会の方から反対に地域の方に要望することっていうか、何かこういうことを気をつけてほしいって何か今の時点で分かれば、前もって地域の者として心構えをしてそれぞれの地域でサポートできればと思うんですけど、今の時点で、この部分だけ気をつけてほしいなというものがあれば。登下校に関してです。参考意見いただければと思います。
高沢教育長	ありがとうございます。私も川中区の学校に勤めていたことがありますので、エリア内はある程度知っているつもりです。まずご心配なバスの件に

	<p>つきましては、一応3キロ以内ということでエリアを設けさせていただきまして今後検討はしていきます。それと、危険箇所等も含めて光山小学校区の児童が川角中学校の方に通うとなると、多少ルートが変わってくるところも出てくると思います。一齐に児童生徒が川中方面に向かいますので、歩道の確保ですとか、危険箇所を地域の方々にどのように見守っていただくというのが出てくるかと思います。今後スケジュールの中で、通学路等をどのように考えていきたいと思いますという部会も立ち上げる予定です。ですので、そういう時には地域の方々と交えて、それからPTAの方、学校関係、それから役場の担当課等も十分検討を踏まえて、安全な通学路を確保していきますし、その場所を見守っていく方々、交通指導員さんなどの配置についても今後時間をかけて検討していきます。ですので、地域の方々にとっては、朝夕の見守りを今もしていただいていると思うんですけども、今後も継続していただける協力体制をまたお願いしていく予定ではございますが、5年後のそれらに向けた各地区の児童生徒数の推移ってというのがありますよね。今まで単独で1つの登校班を作っていましたが、お隣同士で統合した登校班になりますよってということが今後あるかもしれません。今後の推移を見ながら、地域のPTAの方、保護者の方とよく意見交換をしていきたいと思っております。ただ、安全な通学路の確保に向けてしっかりと検討しなきゃいけないと思いますので、それはこちらの方で十分心得ております。</p>
石田課長	<p>ありがとうございました。同じような質問が重複しても大丈夫ですので、何かご心配などあるようでしたら、どうぞこの場でお預かりしたいと思います。</p>
C	<p>はい。すいません、お願いします。</p>
石田課長	<p>はい。</p>
C	<p>先ほど体操着などの話が挙がったと思うんですけども、私自身、これから入学して小学校3年生くらいの時に統合される子がいるんですけども、その場合入学時には、やはり光山小学校の体操着を買わなくちゃいけないのでしょうか。それとも統合に向けて、その段階から川角小学校の体育着を販売してもらえるのか。どうなのかなと思って、ちょっと疑問に思ったんですけど、すいませんお願いします。</p>
土屋課長	<p>11年度開校というような形にはなるんですが、前倒しで、何年の時からこういった物を購入してくださいというアナウンスになるのか、正確な年</p>

	<p>度というのははまだ決まってございませんので、決まり次第お知らせしたいと思います。前倒しで購入していただくのか、11年度の時の入学生からになるのかとか。ただ、光山小学校の体育着を使っているのであれば、それは卒業するまで、中学校に入学するまではそちらも併用して使えるようにしてまいりますので、柔軟にやっていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。</p>
高沢教育長	<p>10年度までは光山小はありますのでご安心ください。しっかりと対応していきます。</p>
石田課長	<p>お願いいたします。</p>
F	<p>Fと申します。これから中学校と小学校が統合することなんですけれども、プールとか体育館とかって、今回クラス数が倍以上になるんですけど、足りないってことはないんでしょうか。授業をやる上で、そのプールが他と被って使えないとか、そういうことは無いのかなっていうのが不思議に思ってるんですけども。</p>
石田課長	<p>ご質問ありがとうございます。まず、プールの方なんですけれども、川角中学校区に関しましては、現川角中学校のプールの方の利用になるというふうに考えています。既に統合した学校さんの使い方などと同じように、支障が無く、プールの授業を行うようにしていきたいとも考えております。また、プールの方も施設的には古くなっているのは事実でございます。そういった中で、敷地の中にあるプールをそのまま使っていくか、または委託をしてどこかで使っていくか、そのところも併せて検討をしていって、とにかく支障が無いように計画は進めていきます。あと、体育館の関係なんですけれども、川角中学校区に関しましては、体育館の他に武道場もございます。この武道場の方を利用して、小学生、中学生の方が支障が無いように組んではいきたいというふうにも考えておりますのでご安心ください。</p>
E	<p>すいません、その件で意見というか、よろしいでしょうか。</p>
石田課長	<p>はい。</p>
E	<p>教育委員会の方ではプールの件について色々とお考えあると思うんですけど、別の会議でプールの件について、例えば川中区の方でしたら城西大学のプールを借りるとか、毛呂中区では毛呂山スイミングのプールを借りた</p>

	<p>りして、そうすれば先生の負担も減る。バスが出るということも聞いたんでね。プールの場合先生が3人付いていないと授業にならないと伺いましたので、先生が少なくて校長先生が午前中ずっと入りっぱなしだったという話も聞いておりますし、大変プールの授業は負担だと聞いております。ですから、もし施設を借りるんでしたら1年を通してプールの授業ができますので、先生の負担もかなり減ると思いますので、校舎内のプールが老朽化しているということでございますので、併せて教育委員会の方で検討してもらえればスムーズにいくのかなと思いますので、一意見として参考までによりしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>ご意見ありがとうございます。お預かりいたします。</p>
高沢教育長	<p>それに関連してなんですけれども、情報提供ってわけじゃないんですけれども、実は国の方でも、小学校の先生の中に専科教員として、算数、理科、それから体育、それから英語、外国語ですね。是非専科教科として置きなさいという取組も始まっています。皆さんご存じかと思うんですけど、例えば音楽だと音楽専科の先生がいらっしゃって、高学年の音楽の授業を持っていたとか、そういうことをやっているかと思います。今、外国語が小学校にも入ってきていますので、担任の先生じゃない先生が外国語を教えたりとか、学校によっては、理科やそれから算数の授業を専科の先生が持ったりとかっていうのがあります。それに加えて、今、国の方では体育の先生も是非専科の方で授業を持つようにというふうに進めています。これは、教員の年齢も上がったりとか、それから、女性教員もいてですね、年齢的に体育の授業を持つのは負担だという声も挙がっていますので、そういうことを考慮して、今言った4教科については今後、専科教科の教員が増えていくというような傾向にございます。町の方でも英語、それから理科等に関しては、中学校の先生を交えて小学校高学年の授業を持ったりとかということで、小中の先生方の交流も含めて子どもたちの教育にあたっていくように、そんな準備もさせていただいたり、理科の方では、小学校の方に専科教員を入れて授業を進めたりとかっていうこともやっています。それに合わせて、プール指導なんかも、統合される場合またはその前の段階でも、中学校の体育の先生などが小学校に出向いていって、専門的な授業が行えるようにカリキュラムの準備もしていますので、また今後そういうところがありましたら、皆さんの方にもお伝えさせていただけたらと思います。ご理解いただきたいと思います。課長の方で何か補足があったらお願いします。</p>

土屋課長	補足ですが、プールについては外部の委託というのも検討の1つではありますが、やはり一体であったり隣接であった場合の最大のメリットとしては、小と中の先生がお互いに協力し合えるところになります。中学校の方では、全体で6クラス程度になってしまいますので、非常に授業実数が少なくなります。教科として。
高沢教育長	持ち時間ということですね。
土屋課長	そうです、持ち時間数です。体育の教員は時間割上、小学校を見ることができますので、プールの授業を実際行った場合は中学校の体育の先生と一緒にいえることになりますので、今の光山小学校の校長先生がプールを見るような状況ではなく、お互いに小と中の先生で見合う、助け合うことができるのが一体型であったり隣接型のメリットであると捉えておりますので。また、授業のカリキュラムについては、体育館であったりプールであったりとか、グラウンドであったりとか、特別教室も含めて、実際、授業の方を組んだこともありますので、時間割上は特に問題なく授業が行われることも確認しておりますので、その辺ご安心いただければと思います。以上です。
石田課長	お願いいたします。
F	Fです。小学校と中学校の授業の1コマの時間って一緒でしたっけ。
土屋課長	小学校の方は時間の方は1コマが45分になっておりまして、中学校の方は1コマ50分というような形となっております。1コマのズレはございますが、小学校の方は2時間目が終わったときに業間休みというような形で休み時間を多く取っております。中学校と小学校では給食の時間が中学校の方が少し短い状況ともなっておりますので、時間のズレというのはあるんですが、1時間目の開始は同じ時間で始められて、少しズレるんですが3時間目の開始には、同じ時間にまた開始することができます。その後、給食を食べて昼休み、清掃をやった後、5時間目の開始時間も同じになりますので、大きなズレというのは無いような形で考えております。
F	ありがとうございます。
G	Gと申します。増築校舎のイメージ、川角中学区敷地イメージについてなんですが、増築校舎を渡り廊下で繋がるんですけど、中学校のどこのあたりと繋がっているんですか。ちょっとわかりづらくて。

道地副課長	職員室の方と、武道場に行く渡り廊下があると思うんですけど、そこと繋がるという形になっています。
G	増築校舎に1から4年生が入るということで、職員室とは離れてしまうというわけですね。最近物騒なことが多くて、対応とかもお考えなのかなと心配です。あとは、5、6年生は中学校の校舎に入ってしまうんですね。離れてしまうのは、小学校は1から6年で完結ということになっているんですけど、日常的に場所が離れてしまうのはどうなのかなって思います。
土屋課長	職員室から離れているというところではございますが、渡り廊下で繋がっています。実際、小学校においては、小学校の担任の先生というのは、なかなか職員室に戻ってくるということはあまり無くてですね、常に増築校舎の方にいるような形で運営をしております。増築校舎の方に保健室もございますので、誰か大人がいないというような状況ではございませんので、常に先生方がいるような形になっております。あとは5、6年生については小中一貫教育を進めるにあたって、中1ギャップというか、毛呂山町の方では、義務教育学校では無いんですが、区分として教育課程上、4、3、2。小学校1年生から4年生までをひとかたまり、5年生から中1までがひとかたまり、最後、中2、中3で後期というような形で区分しておりますので、そういったことも踏まえての配置というような形となっております。以上です。
G	誰でも入れない、地域に開かれないのは学校としても地域としても問題だとは思いますが、防犯に対するハード面とか、私たちの心構えからしても、もう少しそこら辺も具体的に考えてもらえたらと思います。
石田課長	はい。ご意見ありがとうございます。まさにおっしゃられているとおり、しっかりと、塀というか、囲って、どなたも入れないという状況は、児童生徒にとって安心という状況かもしれません。ただ、地域の方々と共に学校の方は色々な事を行って、子どもたちにも経験させていきたいというように、地域の方々にもお手伝いをしていただきたいというふうになっている中でのご意見であり、ご心配であると思います。今後、さらに具体的に検討していく中で、例えば防犯カメラの関係であったり、1年生から4年生までは先ほど説明がありましたとおり、基本的には常に教室の方にいるという状況。それ以上に保健室の方の充実であるとか、検討をしながら進

	<p>めていき、ご安心いただけるような環境を整えていきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと存じます。</p>
土屋課長	<p>防犯カメラの話もございました。毛呂山町の方ではコミュニティスクールの方を推進しています。実際、コミュニティスクール等が盛んな学校については、地域の方が日常的に入ってきてくれていると。その中で子どもたちも挨拶を交わしている中で、逆にそういった状況の方が、不審者が入りづらいというようなところで、地域の方が気兼ねなく入れるような環境、そういった雰囲気があるところほど、より安全だと言われておりますので、そういった面でもコミュニティスクールを進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>お願いいたします。</p>
D	<p>先ほど、ちょっと前に出たプールの繋がりでご覧になってしまったんですけれども、中学生になると、プールの水の深さって、私の時代は古かったのかもしれないですけど、顎下まで入れてくださってた時もあったと思うんです。そこで小学生が使うとなると、小学生に合わせた高さとか、あるいは足台とかを取り入れてくださるのかは分からないんですが、それによってプールの水位とかの関係によって今日は小学生が入れないとか、それで授業の日数、ただでさえプールの日数は昔より全然少なくなっていると思うんです。たぶんですけど。そういったところで、小学生が入るから中学生は少ない、中学生に合わせちゃうから小学生が少ないとか、そういったところはできるだけ避けていただいて、今まで通り、できる限り授業をしていただきたいというのが願いなのですが、プールの深さとか安全面に関しても検討には入ってくださってるかと考えてよろしいですか。</p>
土屋課長	<p>プールの方については、授業時数はしっかりと確保できてはいますので、授業数が減るということはありません。天候によってその年で左右されることはございます。水位の高さもあるのですが、水を入れないという方法もありますし、実際に一貫校や義務教育学校で行っているのは、中に足台というか、台を設置して水位を変えるというか、小学生用に床の高さを上げるというようなところが一般的ではありますので、そういったものは活用してまいりたいと考えております。</p>
D	<p>ありがとうございます。</p>

高沢教育長	実際に水を抜いて水深を浅くすると、プールの壁との間の距離も出てきてしまいますので、そうしますと、子どもたちが入るのに非常に抵抗が出てきます。ですので、水深を下げるのではなく、床を上げる方法で今考えています。そういう方法もあるということなので今後検討させていただきながらやっていきたいと思います。
D	ありがとうございます。
石田課長	ありがとうございます。ご質問などをお預かりするようになってもう1時間ほど経ちました。あといくつかのご質問というところで一区切りしたいと考えるのですが、いかがですか。
E	質問では無いんですけど、感想と申しましょうか。光山小学校の児童と、ここ数年一緒に接したり、川角小学校の児童とも何度か接することはあったんですけども。光山小学校は1クラスの関係だと思うんですけど、6年生がドッチビー大会を交流会でするんですけど、光山小学校の子は非常に弱いんですね、ぼろ負けなんです。後半に川角小学校の児童が疲れた頃にやっと1勝か2勝できるような状況で。2年間私も拝見させてもらって、やっぱりハングリー精神に欠けているのかなと。例えば想像ですけど、1クラスの影響で、対抗心がいい意味で穏やかな子が多くて、川角小学校はクラス対抗ができるので、本気になって対抗試合するんでしょうけど、光山小学校の場合は1クラス内でやってますので、いい意味で穏やかで優しい子なのかなと思います。そうすると、やはりいざという時に踏ん張りが出ないなって思います。私が個人的に思うことだけなんですけど、こういうところを意識して、今度は上下とも交流できますのでね、横だけでなく、そういった意味でも、子どもたちが心育める場になれば良いなと地域の人間として期待しまして、色々と難関なことがあると思いますけど、是非、実行していただければなと思います。地域の人間として、ここ数年間、光山小学校に接した感想ということで、私個人でこの場でふさわしいか分かりませんが、子どもたちのため、地域のために前向きに進めていただければと思います。余計なことを申しました。
高沢教育長	いえいえ。ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。確かに児童生徒数が減っていく中で、1学級あたりですと、クラスの中の人数が多いんですけども、他のクラスというか、2クラスあれば他のクラスと対抗とか、あるいは交流ができたというところで、多様な人間関係を作ったりということもできるし、切磋琢磨する、そういう場面も多くなるかとは思いますが。1つの学校の中で色んなことが完結することはよ

	<p>ろしいんでしょうけども、そういう交流する機会が少なかったり、あるいは固定化された人間関係の中で、っていうこともデメリットではありますがけれども、逆にそれをメリットとして地域の方にご協力いただいて、地域の方と一緒に人間関係を構築したり、あるいは行事を行っていくことも、地域の一員としての自覚が芽生えたりということで、それも長所の方に変わるかと思います。学校区の中で、様々な共同の取組、共同行事等を行っていく中で、今後自分たちが中学入ったときは一緒になるんだよと、そういう意識が芽生えてくることもあるかと思います。様々な場面で自分の良さを活かしたりとか、あるいは友達の良さを認めたりとか、そういうことで地域の方々と子どもたちが成長していく場面を私たちの方も意図的に作っていく必要がありますし、それも十分今までやってきました。今後ともそういう機会を設けながら、子どもたちの育成には十分配慮してまいりたいと思います。それと、地域の特性でしょうか、毛呂山の学校区の中ではどうしても2つの中学校区っていうのがあるんですけども、中学校も中学校の方で色んなやり取りをしています。ですから、今度は統合した2小学校での交流ということも十分検討しています。町全体で、あるいは西部地区の中でということで、子どもたちの交流、教職員の交流もさらに深めていく必要もあると思います。そういうところも視野に入れて、今後、毛呂山の教育を進めてまいりたいと思いますので、どうぞご理解をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>それでは、色々なご意見、ご質問など出たと思います。こちらでよろしいですかね。はい。それでは最後に、教育長から一言お願い致します。</p>
高沢教育長	<p>本日は貴重な時間をいただきまして、町の小中学校編成計画の説明をさせていただきました。今後も地域の方々、これから小学校等に上がる幼保小、こども園等の保護者の方々にも丁寧に説明をしてまいる予定でございます。また、町のホームページの方で、今日説明した動画についても、私の解説付きのものを流していきたいと思いますので、またそういう場面で、もし分からないことがありましたら見ていただいたり、委員会の方にご質問いただければありがたいかと思います。今後とも、毛呂山の子どもたちの健全な育成、それから将来を担う子どもたちの教育に私たちの方も一生懸命取り組んでまいります。今日お集りの皆様にも今後ともご協力いただければ大変ありがたいかと思います。貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>

石田課長	ありがとうございました。以上をもちまして、毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）に関する説明会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。
------	--